

古河地区ケアマネだより

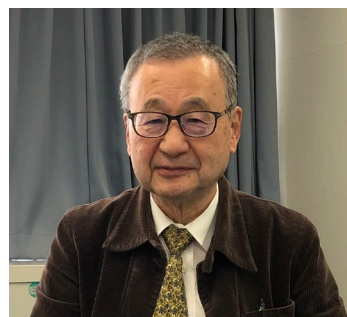
第 78 号

茨城県介護支援専門員協会古河地区会 事務局:古河市社会福祉協議会
 令和 5 年 12 月発行 TEL:0280-47-0150 FAX:0280-48-0265 HP URL:http://www.koganet.ne.jp/~care/

<研修会報告>

- ① 令和 5 年度古河地区会第 2 回研修会
- ② 古河薬剤師会・茨城県介護支援専門員協会古河地区会
合同研修会

令和 5 年 11 月 18 日に、茨城県介護支援専門員協会古河地区会第 2 回研修会が開催されました。新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行され、今年度から久しぶりに会場で顔を合わせての研修会が出来るようになりました。当日は 52 名の介護支援専門員のご参加、また 4 名の障害福祉の相談支援員の方々にもご参加いただき、ご意見を伺うことが出来ました。



<古河地区会 赤荻会長>

研修では「地域共生社会におけるケアマネジメントについて」として、日本介護支援専門員協会常任理事能本守康氏にご講演いただき、障害福祉サービスの流れや障害福祉制度と介護保険制度の違い、また地域共生社会を目指す障害者支援におけるの留意すべき点などを話していただきました。(2 頁の内容をご参照下さい。)

また令和 5 年 10 月 18 日には、古河薬剤師会・茨城県介護支援専門員協会古河地区会合同研修会がハイブリッドで開催され、56 名の薬剤師、38 名の介護支援専門員が参加しました。

研修テーマを「古河モデルの評価とこれからの連携について考える」として、2018 年から始まった連携事業『古河モデル』に携わった薬剤師、介護支援専門員からの評価や解説、また北海道科学大学薬学部教授山下美紀先生の講演やシドニー大学 Kolling 研究所藤田健二先生からの特別発言もいただきました。(3 頁の内容をご参照下さい。)

そして講義後に「これからの連携と古河モデルの進め方について考える」をテーマにグループディスカッションを行い、薬剤師と介護支援専門員の両者の連携について皆さんで考えていただきました。

古河モデルは、全国市町村の地域包括ケアシステム担当者の会議の場で紹介していただいております。厚生労働省から研究結果の情報を求められるなど多くの反響もいただいております。今後、高齢者の服薬に関する継続した取り組みが期待されています。

令和5年度茨城県介護支援専門員協会古河地区会第2回研修会
「地域共生社会におけるケアマネジメントについて」

(1) 地域共生社会の実現とは・・・

「子供から高齢者まで、障害(児)者も健常者も
日本人も外国人もあらゆる人々が、ともに
支え合って安心して暮らせる世の中を目指すこと」

(2) 障害福祉のサービスの種類

- ・介護給付、
- ・訓練等給付
- ・自立支援医療
- ・地域相談支援給付
- ・計画支援相談給付
- ・補装具
- ・地域生活支援事業

(3) 自立支援給付(介護給付、訓練等給付)の申請の流れ

- ① 自立支援給付支給の申請
- ② 計画相談支給申請
- ③ 認定調査、主治医意見書、審査会
- ④ サービス利用計画作成
- ⑤ 障害区分認定
- ⑥ サービス支給開始
- ⑦ モニタリング報告書

(4) 介護保険制度と障害福祉制度の違い、その他

介護保険制度・・・認定結果が出てからケアマネジメント開始
区分支給額の中でサービスを組み立てる。

障害福祉制度・・・申請段階でケアマネジメント開始して、サービス計画案で申請
区分は目安で、サービス変更毎にサービス等利用計画書で支給申請

※介護保険の介護認定を受けているものは、障害福祉制度より介護保険制度が
優先給付される(みなし2号は障害福祉優先)。

※障害福祉にしか給付がないサービスについては、併用できる。

※障害者支援の特徴：社会参加、特に就労、他者交流、地域活動の希望が強い。

※精神障害者支援における留意点：障害福祉制度において支援区分が高くて
も要介護認定では低い認定となることが多い。依存性が高いため、適度な距離を保
つことが必須である。時間軸に相違がある為、支援のタイミングが重要(私たち
の3日間は、本人にとっては3ヶ月とを感じる人もいれば、せっちな人もいる)。

(5) 障害福祉の相談支援員さんよりコメント

- ・青嵐荘が、古河市基幹相談支援センターとなっていますので、利用者やご家族の
ことなどご相談があれば連絡下さい。
- ・古河市の電子連絡帳などを活用して、情報交換をしていければいいと思います。



古河薬剤師会・茨城県介護支援専門員協会古河地区会合同研修会
【古河モデルの評価とこれからの連携について考える】

(1) 古河モデルがこれまで得た評価の共有（古河薬剤師会 副会長 宇田和夫氏）

昨年、茨城県の事業として、県内5つの市で古河モデルを参考にしており、本年も継続している。広島県でも古河モデルを参考にしようとしています。

厚生労働省の方との話の中では、ケアマネジャーは介護保険、薬剤師は医療保険と保険制度をまたがるという中での評価の難しさを感じながらも、1つの問題を多職種で解決できるのであれば、なんらかの形で評価する方法を今後考えていくべきではないかという話が出てきている。

(2) 古河モデルの概要と成果（古河薬剤師会 理事 樺山徳幸氏）

<概要>

- ① スクリーニング：ケアマネジャーは、服薬気づきシートで利用者の服薬状況を確認し、薬局の薬剤師に情報提供。
- ② アセスメント：薬剤師は、ケアマネジャーの情報を基に、服薬状況の評価、課題抽出、対応策の検討をして、服薬アセスメントシートでケアマネジャーと共有
- ③ 情報共有と対応：ケアプランへの反映、薬剤師とケアマネジャーの連携によるアクション
- ④ 問題解決へ

<評価、結論>

- ・事業の期間中に、服薬問題を抱える患者割合が1期から2期にかけて減少。
- ・ケアマネジャーが問題なしとしたケースについて、薬剤師も問題なしと判断した割合（陰性的中率）92.3%、ケアマネジャーが問題ありとしたケースについて薬剤師が問題ありと判断した割合（陽性的中率）60.4%。
- ・この結果から利用者の服薬管理の問題に効果的なアプローチであることを示唆している。

(3) 特別発言（シドニー大学 Kolling 医学研究所 藤田健二先生）

- ⑤ 良かったポイント・・・研究協力者の多さ、ポジティブな結果。
- ⑥ 改善ポイント・・・離脱率が比較的高い、比較対照群がない。

(4) 介護支援専門員からみた古河モデルの有用性（古河地区会 副会長 木村貴政氏）

- ・アセスメント時の根拠が増える（薬剤師のプロとしての見解が増える）
- ・サービス担当者会議に顔なじみの薬剤師さんがいる安心感が増す。
- ・居宅療養管理指導も含めて、自信あるプランニングができる。
- ・評価時、再度薬剤師の方々と話すことができる。

※ゴールは、顔の見える関係性づくり

(5) 古河モデルにおける薬剤師の介入効果（北海道科学大学教授 山下美紀先生）

- ・薬剤師のアセスメント結果から、在宅の現場では、「残薬」、「薬に対する不安」、「多剤併用」に関する問題の多いことが分かった。
- ・薬剤師による介入の結果、5～7割程度の利用者で問題点が解消され、薬剤師の介入回数が増えるほど問題の解消される割合が高くなることが示された。

(6) これからの連携と古河モデルの進め方について考える

(グループディスカッション)

- 服薬管理シートを簡潔で、業務の負担にならないようにしてほしい。
- 将来、全国的に利用されるよう、他市町村および他県への宣伝が必要である。
- きづきシートには認知症の有無のみを記入すればよく、認知症の自立度まで記入する必要はない。

など、色々な意見が出されました。

たくさんの薬剤師、介護支援専門員のご参加有難うございました。



ケアマネジャーの仕事について



昨年より古河総合病院居宅支援事業所で勤務させて頂いております。私共の事業所は現在9名のケアマネジャーが在籍しております。ケアマネジャーの仕事は個別の業務が多いので一人で問題や悩みを抱え込んでしまいがちですが、週1回のミーティングはもちろん普段からもトラブルが起こりそうなケースについては早期から話し合い、一緒に対応を考えています。こうしたチームとなって協力し合うことで安心して働くことができます。縁があって令和5年度より介護支援専門員古河地区の役員を務めさせていただいております。開催する研修等を通して地域のケアマネジャーや事業所とのつながりを深め、お互いに気兼ねなく相談し合えるような関係を築けていけたら素敵だと思います。今後ともよろしくお願い致します。

古河総合病院居宅介護支援事業所 田宮 貴

日本介護支援専門員協会入会申し込みについて

日本介護支援専門員協会は、真摯に利用者・家族と向き合う介護支援専門員の社会的地位の向上、処遇の改善に向けた活動を継続していきます。そのためには、当協会の社会的な発言力の強化を目指すことが必要です。会員数の増加による組織力強化、都道府県支部との連携の下での会員への情報提供やサポート体制の強化を進め、それにより介護支援専門員のための組織づくりに当たっています。一人でも多くの入会者を求めます。

編集後記

令和5年5月新型コロナウイルス感染症」が5類に移行されて、介護支援専門員の研修も会場に集まり対面で行えるようになりました。またZoomでの研修も広く行われており、参集とZoomを併用したハイブリッドでの研修も行われています。これは、今回の研修のように、介護支援専門員以外の薬剤師さんや障害福祉支援相談員さんなど忙しい他職種の方とつながりを持つ手段としても有効と思われます。

今後とも介護支援専門員の個々のスキルアップ、そして介護支援専門員同士や他職種との連携強化のため、気軽に話し合える機会をつくっていただければと考えます。

たくさんの方々に研修に参加していただき、ありがとうございました。